

自然と歴史の散策路

別冊

大野城トレイルマップ

牛頸の自然と生きものたち (田園と牛頸川ルート)

このマップでは大野城市の自然や現地に暮らす生きものを紹介しているよ。

『田園と牛頸川ルート』を散策するときは、

このマップを持ってどんな生きものがあるか探してみよう。



大野城市



大野城市PRキャラクター
大野ジョー



(公財) おおのじょう緑のトラスト協会

(公財) おおのじょう緑のトラスト協会は、大野城市の豊かな自然を守り育て、次世代へリレーする活動「おおのじょう緑のトラスト運動」を推進しています。牛頸や乙金の里山を活動拠点として、大野城市と連携しながら森林整備活動や生きものの保全に取り組んでいます。

また、森の生きものさがしなど、自然にふれ合えるイベントを定期的に開催しているので、ぜひご参加下さい。



(一社) まほろば自然学校

(一社) まほろば自然学校は、「ふるさとの生物多様性の保全」を目的として活動しており、令和2年度から大野城市と共働して市内小学校で環境教育を行っています。

環境教育では、生物多様性を学ぶ一環として、生きものを見て、ふれて、感じることをテーマに、自然とふれ合っています。

【主な体験内容】

「身近な生きものとの環境のかかわり」

牛頸トラストの森にいるベニツチカメムシや里山の生きものなどを観察し、外来種と身近な環境問題について学んでいます。

「イネと田んぼの生きもののかかわり」

ヤゴやバッタなどの田んぼの生きものつながりについて学んでいます。

※生きもの情報や写真は(一社)まほろば自然学校に提供いただいています。



身近な生きものとわたしたちのつながり

田園と牛頸川ルートは、牛頸山や牛頸川などの広大な自然にふれ合える散策路となっています。散策路では、魚や動物、昆虫、植物などたくさんの種類の生きものを見つけることができます。

この生きものたちは一見別々に暮らしているように見えますが、お互いにつながり合いながら生きています。これを「生物多様性」といいます。わたしたち人間も「生物多様性」の中の一員であり、わたしたちの生活に必要な空気や水、魚、野菜、お米などは生きものの恵みによるものです。わたしたちの普段の生活はたくさんの生きものによって支えられています。ところが近年、人間の活動や気候変動により、多くの自然や生きものが失われつつあります。

身近なところでは、牛頸川にいるホタルは、毎年5～6月に美しい光を放っていますが、ホタルやホタルのえさになるカワニナは、きれいな川でのみ生きることができる生きものです。このまま地球温暖化が進んだり、川が汚れてしまうと、ホタルを見ることができなくなります。

大野城市では、「生物多様性」を守るため、『食品ロスの削減』や『再生可能エネルギーへの転換』など様々な施策に取り組んでいます。

ぜひ皆さんもできることから始め、大野城市の豊かな自然を未来につないでいきましょう。

牛頸川のゲンジボタル



フィールドマナー

自然いっぱいの牛頸ルートを楽しむためにも、ルールを守って散策しましょう。



ごみは必ず持ち帰りましょう。



ペットのフンは持ち帰りましょう。



生きものをむやみに持ち帰ったり、持ち込んだりするのはやめましょう。



雨がふりそうになったら、すぐに川から離れましょう。

出前講座メニュー

大野城市では環境問題や環境教育に関する出前講座を開催しています。
豊かな自然を子どもたちに残すため、まずは「知る」ことから初めて見ませんか。

令和5年度の出前講座メニュー

1. 知って得する省エネ行動
2. 自然環境の保全
3. ごみの現状とリサイクル
4. SDGsにつながる行動実践
～環境の視点から～
5. ゼロカーボンって何？
6. 気候変動による未来の姿



市ホームページ

大野城市の生きものに関する取り組みは市のホームページでも紹介してるじょー。



問合せ先 **大野城市 循環型社会推進課**

〒816-8510 福岡県大野城市曙町2丁目2番1号

TEL (092)580-1886(直通) FAX (092) 573-0022

メールアドレス kankyo@city.onojo.fukuoka.jp

《田園と牛頸川ルートで見つかった主な生

春の生きもの

●ヤマザクラ



昔から日本の野山に咲いているサクラをまとめて『ヤマザクラ』というよ。花は3cmほどで、白やほんのりピンク色をしているものがあり、花と一緒に赤茶色の若葉がでるよ。春のおとずれを知らせてくれるサクラ。花が咲いたらみんなも家族や友達と一緒に花見に行ってみよう。

●ウグイス



福岡県のシンボルにもなっている鳥。夏は虫、冬は植物の種や実を食べている。春になると「ホーホケキョ」と鳴き、春をつげる鳥ともよばれている。

●スジグロシロチョウ



公園や住宅など、身近なところで見られ『モンシロチョウ』とよく間違われるチョウ。はねに黒いすじがあり日陰でよく見つかるとよ。

●イタドリハムシ



『イタドリ』などの植物の上でよく見られ、その葉を食べている。人が近づくと手足を丸めてこりと葉の上から落ちて死んだふりをする。

●フキ



山や土手でよく見つける春の山菜の一つ。その葉は大きく緑色のハート型をしている。花茎は『フキノトウ』としてよく知られている。

●スミシの仲間



町中でも見かける小さな花。その種はアリに運んでもらうため、公園だけでなく、道路上など思いがけないところで見られることもある。

●ナミテントウ



赤と黒の模様があるテントウムシ。背中の模様は二紋型や四紋型、まだら型など11型に分けられる。幼虫も成虫も『アブラムシ』を食べてくれる。

夏の生きもの

●クマゼミ



日本で一番大きなゼミ。体が真っ黒で透き通ったはねを持っているよ。メスは鳴かず、オスがお腹を振るわせて大きな声をだすよ。ゼミの1日は、午前中に公園など明るいところで「シャーシャー」と大きな声で鳴いて、午後には好みの木で食事をとってるよ。

●オニヤンマ



日本で一番大きなトンボ。オニのようなこわい顔で、黒い体、黄色い模様をもつ。幼虫は『ヤゴ』とよばれ、2~4年ほど水中で生活している。

●タマムシ



見る角度でさまざまな色に見えるため、「宝石のような甲虫」ともよばれる。いつも高い木の上にいるためなかなか見つからない。

●キビタキ



春から夏にかけて日本にやってくる夏鳥。メスは茶色一色だが、オスは胸からお腹まで黄色一色の派手な色をしている。

●エタナナフシ



サクラやブナなどの木に住んでいるが木の枝にそっくりで見つけようとしても気がつかない。ゆっくり動くので枝が揺れているように見える。

●ネジバナ



日当たりのよい芝生でよく見つける花。ピンク色の小さな花がらせん状に咲いており、花ごとゆっくり動くので向きが違ふこともある。

●ツユクサ

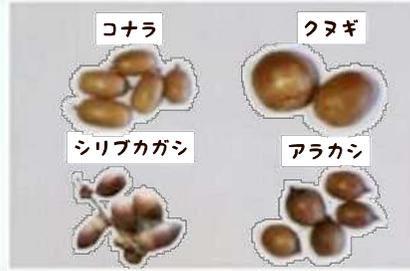


公園や道端などで見かける花。アサガオなどと同じ『一日花』で、早朝に朝つゆにぬれた青い花を咲かせるが、夕方にはしぼんでしまう。

きものたち～現地で見つけてみよう～》

秋の生きもの

●ドングリ



ブナの木になる実をまとめて『ドングリ』とよんでいて、ネズミやイノシシのエサになってるよ。日本にはおよそ20種類ほどあり、それぞれ形や大きさが違うので、『コマ』や『ヤジロベエ』、『楽器』など、ドングリを使って遊び道具をたくさん作ることができるよ。牛顔にどんな『ドングリ』があるかみんなで探してみよう。

●ツチイナゴ



稲をよく食べるのでイナゴとよばれている。体の色は幼虫の頃は緑色だが、成虫になると茶色に変わる。田んぼやあぜ道に見られるバッタの仲間。

●マユタテアカネ



成虫になると体が赤くなるため、『赤トンボ』ともよばれている。トンボの中ではやや小さく、他のトンボと違い、顔にまゆを立てたような黒い模様がある。

●アレチヌスビトハギ



名前のとおり、荒地でも花が咲き、その種は『くつつき虫』ともよばれている。茂みなどを歩くと気づかないうちに種が服にくっついていることがある。

●クズ



町中や公園でも見かける秋の七草の一つ。ツタが巻き付きながら広がり、その花は紫色で、ブドウに似た甘い香りがする。

●アナグマ



穴を掘るのが得意で、トンネルを掘って5～6頭ほどの家族で虫や植物などを食べて生活している。おだやかな性格で、人がいても逃げないことがある。

●クサギの実



葉にカメムシのような臭いがあるため、臭木とよばれている。瑠璃色のよく目立つ実は鳥の好物で、実るとすぐに食べられてしまうこともある。

冬の生きもの

●ジョウビタキ



秋から冬にかけて日本にやって来る冬鳥。オスは白い頭とオレンジ色のお腹、メスは灰色を帯びた褐色をしているよ。一匹でいることが多く、小さい鳥なためなかなか見つからない。「チッチ」や「カッカッ」という鳴き声が聞こえたら近くにいるので探してみよう。

●マガモ



池や川でよく見つかるカモ。オスは黄色のクチバシと緑のアタマをしている。潜ることができないので、首だけ潜らせて水草などを食べている。

●ヨコヅナサシガメ(幼虫)



木の上で生活する『カメムシ』の仲間。幼虫のころは木のくぼみなどに、集団で集まって冬を過ごす。サクラの葉を食べてしまうケムシを食べさせてくれる。

●ヤブツバキ



冬に咲く数少ない花。5cmほどの紅色の花の中には、甘い蜜がたくさん入りしており、花が咲くと虫や鳥が集まってくる。

●ハラビロカマキリの卵



木の幹や家の壁で見つかる卵。スポンジ状のものに包まれており、春になるとたくさん幼虫が出てくる。成長すると名前のとおりお腹の広いカマキリになる。

●サネカズラの実



昔からある植物で、枝葉から取れる粘液が髪を整えるために使われたことから、『美男カズラ』ともよばれている。11月ごろに実がいちごの様に赤くなる。

●ニホンアカガエルの卵



赤い色をしたカエルの卵。一度に約500～3000個の卵を産んでいる。近年では、産卵場所となる水辺が減少しているため見かけることも少なくなっている。

牛頭の自然と生きものたち (田園と牛頭川ルート)



牛頭の生きもの



牛頭の生きもの



いこいの森中央公園

複合遊具「スレイキャッスル大野ジョー遊ぶ城(じょう)」をはじめ、巨大トランポリンや斜面遊具など遊具がたくさんあります。また、21世紀の丘からは大野都市が一望できます。



牛頭の生きもの



いこいの森水辺公園

水辺公園は、牛頭川の湖畔に整備された公園です。川遊びが楽しめる川原、散策や休憩に適した広場や遊歩道などから成るくつろぎゾーンです。自然に囲まれた楽しいピクニックをどうぞ。

